



かぼちゃへの支出

— 一家計調査（二人以上の世帯）結果より —

今年の12月21日（水）は、一年のうちで最も昼の時間が短い「冬至」です。冬至には、かぼちゃを食べるといふ風習が知られています。かぼちゃは運気を高めるとされる食べ物*であり、またビタミンを多く含み風邪予防に効果があるため、この日に食べられるようになったと言われています。

そこで今回は、「かぼちゃ」への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

※かぼちゃを漢字で書くと「南瓜（なんきん）」となり、『ん』のつく食べ物は「運盛り」と呼ばれています。

冬至の「かぼちゃ」への支出金額は約4.5倍

最初に、昨年（平成27年）12月の1世帯当たりの日別支出金額について見ると、冬至であった22日（火）の支出金額が最も多く、この日を除く当月の1日当たり平均の約4.5倍となっており、冬至に「かぼちゃ」が多く購入されていることが分かります（図1）。

図1 「かぼちゃ」への日別支出金額（平成27年12月）



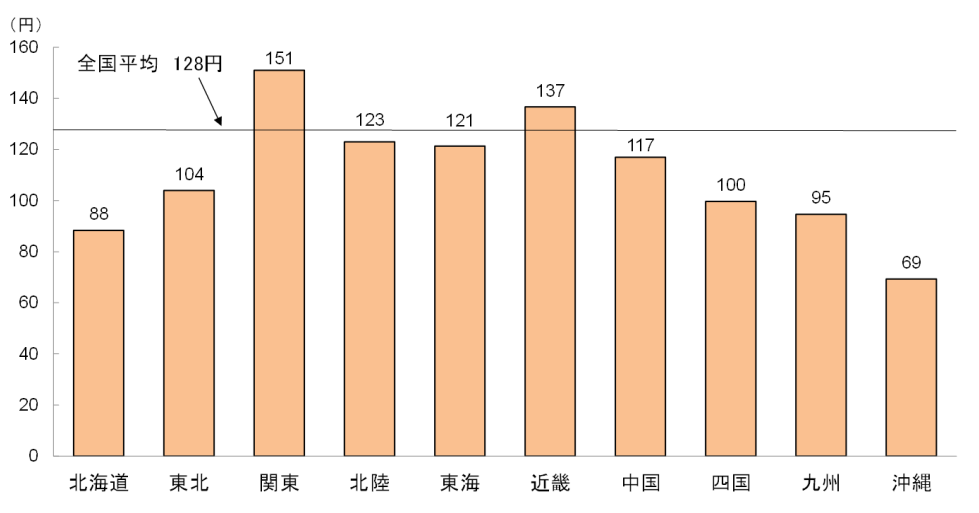
※色つき部は土日祝日及び年末年始

12月の支出金額は関東地方と近畿地方が多い

次に、平成25～27年の3年間における12月の1世帯当たりの「かぼちゃ」への支出金額を地方別に見ると、関東地方が最も多く、次いで近畿地方となっています。

関東地方では、冬至にかぼちゃとこんにゃくを一緒に食べて体の邪気を払うという習慣があるようです。一方、関西地方では、かぼちゃと一緒に運気を高める『ん』のつくにんじんやだいこんを食べる習慣があり、また北海道や東北地方でも、かぼちゃと小豆を炊いた「いとこ煮」という料理があるなど、各地で冬至にかぼちゃが食べられています（図2）。

図2 12月の「かぼちゃ」への地方別支出金額（平成25～27年平均）



年齢階級が高くなるほど年間購入量が多い

最後に、世帯主の年齢階級別に年間購入量を見ると、年齢が高くなるほど購入量が多くなっています。ただし、平成27年の結果を10年前（17年）と比べてみると、39歳以下の世帯を除いた年齢階級で減少しており、特に50歳代と60歳代では1kg近くも減っています（図3）。

図3 世帯主の年齢階級別「かぼちゃ」の年間購入量（平成17年、平成27年）

